

# 令和元年度第3回ゼニガタアザラシ科学委員会

## 議事概要

令和2年1月29日（金） 13:30～16:00

会場：札幌エルプラザ2階 環境研修室

### 議事1. えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画(第2期)について

○事務局より資料1-1「パブリックコメント実施結果概要」及び資料1-2「えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画（第2期）」に基づき説明。

#### ◆主な意見等

- ・審議会ではたくさんの意見をいただいたが、おおむね好意的な意見が多かった。
- ・今回の捕獲で幼獣の割合が多かったということを受け、個体数管理と個体群管理、どちらの方向性なのかという質問をいただいた。これから目指すところは、特定の有害個体を優先的に捕獲するといった個体群管理であり、数ではなく質的な評価をしたいと説明し、納得していただいた。
- ・生きた個体について、水族館や動物園関係への譲渡は今後も続けてほしいという希望もあった。また、動物福祉の観点からの意見がかなり多かった。

（以上、審議会に同席した桜井泰憲委員からの補足的な報告）

### 議事2. 令和2年度事業実施計画(案)について

○事務局より資料2「令和2年度事業実施計画（案）」に基づき説明。その後、モニタリングに関する部分について小林万里委員より以下のとおり説明。

- ・捕獲・混獲個体のモニタリングについては、どんな個体がどのくらい捕獲されたかという調査、及びそれを解剖して年齢査定、各個体の繁殖状況の把握、胃内容分析を実施。
- ・行動解析として、今年は上陸割合を改めて調査するべく発信器を付けたが、データ未整理のため、どういう個体に付けたかについてのみ報告。
- ・環境省がかなりの頻度でドローンを飛ばし、オルソー画像を得ており、その体長計測及び地上カウントと動画で撮ったデータとの見落とし率の差についても調査。

#### ◆主な意見等

##### 【モニタリングについて】

- ・個体数をカウントするとき、場所別の記録をとることは難しいのか。

- それはなかなか難しい。数を数えるだけなら、ドローンをもっと上空の、アザラシへのデ  
ィスターブがないところで飛ばしておいて、時間を記録し、動画に記録されている時間と  
照らしあわせる方法はある。
- ・上陸個体が一番多いのは潮が引く時ということだが、最大上陸可能な条件というのをまず  
選び、それを元にしてドローンを飛ばすということが必要になってくる。
- 春、子供がいる時期も上陸頻度が変わるので、子供がいる時期、夏、換毛期、秋と季節毎  
に、同じ調査を続け傾向を見ていくしかないと思う。
- ・飛ばせるときにはできるだけ飛ばしており、潮も引いているときを中心に撮っているが、  
風が強いなど条件が厳しく、なかなか同時に撮れる日が少ないというのは仕方ないところ  
かと思う。(事務局)
  - ・発信器を付けた個体は全部当歳だったということだが、何か理由があったのか。できれば  
大人のアザラシがどういう動きをするかも見たほうがいいのかと思った。
- 今回、上陸割合を調べるために、ある程度大きな個体に付けるというのが目標だった。但  
し、刺し網で獲った個体というのが条件となり、刺し網では大きい個体はほとんど獲れず、  
その結果当歳の個体になった。(事務局)
- ・この時期に黄体がない個体は、この年妊娠できてないということなので、ある程度初産年  
齢に関するデータがまとまってきたら、把握しておきたい。(座長)
- ごく稀に、4歳とか2歳で黄体がある個体がいる。むしろそっちのほうのデータを集める  
必要があるかと思う。
- 白体については、出産が4月、5月だったら間違いなくその年は比較的大きいのが残って  
いるはず。また、アザラシでも妊娠痕が子宮に残っているということが理論上はある。組  
織を見れば、間違いなく分かると思う。(座長)
- 泌乳しているかどうかについても見ている。白体ありというだけでなく、泌乳あり、とい  
う項目も記録している。
- ・他魚種に関する漁獲データも少し整理しておかないと偏ってしまうので、あくまでも定置  
に入った漁獲数に対する漁業被害のうち、サケがこれくらいだという形で示してほしい。
  - ・捕獲数の再評価結果のグラフで、ポピュレーションサイズと書いてあるが、どこまでが実  
績で、どこからがシミュレーションかが分からない。もう少し、観察結果では今どうなっ  
ていて、今後はどうなるはずだということが分かるように書かないといけないと思う。
  - ・漁業被害のアンケートについては、もう少し漁業被害の実態をしっかりと見るようなアンケ  
ートを作って、もう一度データを取り直せばよいと思う。
- アンケートという言葉が2つあって分かりづらいが、被害アンケートとして以前から行

っていただいているものと、昨年度から行っている被害意識のアンケートがある。後者はアンケートの聞き方やどういう形で集計するかというのが不十分だという指摘をいただいていたので、もう少し検討させていただきたい。(事務局)

#### 【被害防除対策について】

- ・被害対策の効果検証の評価に関して、そろそろ定量的なデータを示すということを今後やっていったほうがいいと思う。(座長)
- ・被害割合の高い場所が変わってきて、今まで多かったところが減っているということを見ると、格子網はある程度効果があると思うが、網の縁を破られるなどの新しい被害への対策として、考えられることはあるのか。
- 網の中に入って破るというのは明らかに大きい個体だから、この網の出口の方向に強化網(ソーセージ状の、アザラシが入ったら出られない網)を付けて捕獲するというやり方があるので、やってみる価値はあると思う。
- 金庫のところで網を破る個体は結構時間をかけていると思うので、そういうところに音による忌避装置を設置してみるというのはどうか。魚に影響がないという条件付きだが。
- 魚の通るところに忌避装置を付けたことがあるが、何回もアザラシは来ている。被害があるときは何をやってもダメ。
- アザラシが入ろうとする行動に対しては、そこで嫌がれば諦めると思うが、入ってしまったものが必死に出ようとして網を破ってしまうほうが大きいのではないか。(事務局)
- 音の件では、メーカーの機械を使って100回150デシベルの音で魚への影響を調査しているが、普通の根付きの魚は音に対して反応せず、唯一反応したのはマダイだけだった。
- ・音波忌避装置については、効果があるというデータがどこにもなく、通常なら止めてしまっていていいと思う。結果を残してから結論を出すということだろうが、いつまでも時間をかけて引きずるのも良くないので、必要なデータを取ったうえで、多分忌避装置による被害防止の検討を止める方向にいくのではないかと思う。
- 忌避装置については地元からも無駄なことを続けても意味は無いと強く言われている。ただ、特定の場所に集中して音を出すことで被害防除の効果が得られるのではないかとの提案もあり、曖昧なままで終わるのではなく、ある程度やってみてダメだったらダメというふうに、一度整理をしてほしい。
- 年度始めすぐにも作業部会等でまずご議論いただき、例えば設置箇所を変えるといった手法を試してみて、その結果に対して評価するという形も可能かと思う。(事務局)

#### 【個体群管理について】

- ・次年度の捕獲数について、資料2別紙の案2-2では、刺し網の捕獲は「積み残し分36頭、その他に3分の1の17頭」と書いてあるが、最も単純なのは、36頭刺し網で獲って、その後定置網で獲って、積み残しが出た場合はまた来年の春獲するという方法かと思う。
- ・漁業者からそれ以上刺し網で獲ってほしいという要望があるなら、協議会として妥協してもいいと思うが、36頭以下というのではないのか。
- ・秋の定置網での捕獲結果を以て翌年度の判断をする。捕獲数だけでは無く、定置網に固執する個体を捕獲するという質の問題もあるので漁業者とも相談し柔軟に対応するのが良い。
- ・捕獲数の関係で、昨年度からの繰り越し分の36頭に関しては刺し網で、残りの50頭に関しては定置網に割り振り、基本は36対50という考え方で捕獲を行う。ただし、少し漁業者にも意見を聞くということによろしいか。(事務局)
- ・なるべく定置網での捕獲数は増やす方向で努力するがしかしなかなか獲れないので、残りも刺し網でということ。個体群管理については、基本的な考え方はそのような進め方でいく。(座長)・最終的に事務局が修文したものを委員各位に回覧していただくということをお願いする。(座長)

#### 議事3. ゼニガタアザラシえりも地域地域個体群のステイタス・レポートについて

○事務局より資料3「ゼニガタアザラシえりも地域個体群に関するステイタス・レポート構成(整理案)について」に基づき説明。

#### ◆主な意見等

##### 【記載する内容について】

- ・資料3のP2「表」にある「1」(生態)、「2」(現況)、「3」(数量解析)はあくまでも概論であって、このステイタス・レポートの一番重要なのは「4」(被害対策及びモニタリング)だと思っている。これは付録ではなくて、正に一番重要なところだと思う。
- ・「4」はすでにやっていることで、これからどんどん変わっていくことだが、その前に「1」、「2」、「3」をちゃんとまとめて、何をやっていて何が足りてないかを整理しようというのがこのステイタス・レポートの趣旨なので、「1」、「2」、「3」をまとめるということだと記憶している。
- ・順応的管理の、そのままの並びで言えば、まず現状があつて、評価があつて、対策があつて、モニタリング。それが今どこまできているのかというのをきちんと書いて、それをフ

ードバックしていくというのがこの管理計画なので、そういう形の整理でいいのではないか。だから「5」（調査研究・対策事業等）はむしろリファレンスデータで十分なのではないか。（座長）

- ・実際に捕獲をやってみてどの程度減ったか、といったことは現時点でなかなか書けない。この管理計画が開始される時点（2016年春）までのアセスメント結果であればすんなり書ける。「だからこういう管理計画を実施するという合意を得られた」という段階のもの。
- ・入れられるものはなるべく入れたほうがいいというのは分かりやすいが、今書けるところはどこまでかということ、やはり「3」の管理が始まるまでの部分。どうしてこの管理をやるのは適切なのかということのベースだと思う。それが今、欠けているので、まず作るというのを大前提として、「3」までを早急に作ろうというのが目標値でいいと認識している。
- ・管理のベースとしてきちんと整理するということは皆さん共通の認識だと思っており、そこまではやれるものはどんどんやっていかななくてはと思う。「4」、「5」の取り扱いについては、これまでやった事業を実施年表のような形で整理すべきという意見もあった。そういったところも併せて整理しつつ、実際に形を作っていくとちょっと深い議論が生まれまいだろうし、そこをまたご協力いただくという進め方としたい。（事務局）

#### 【作成手順について】

- ・どなたが主筆していただき、どなたがオーサーになっていただくかということ、まず合意をとらせていただき、3年後の中間評価を目指し、その時点にはきちんとしたものが出るということを前提で準備をさせていただく。まとまっているものをどんどん出してけるように、どなたかにオーサーをお願いしていきたい。（事務局）
- ・科学委員会全員がオーサーになるわけではない。いずれにしても、まず全体の構成案があってこそその議論。（座長）
- ・やはり誰かが一人中心になってやらないと絶対に進まない。

#### 議事4. その他

○事務局より、今後のスケジュールについて、保護管理協議会が3月5日に開催されること、本年4月、令和2年度から本管理計画を発効したい旨を説明。その後、羽山座長よりアザラシジステンパーの話について紹介。

#### ◆主な意見等

- ・昨年末にScientific・Reportsが出している雑誌に出た論文について報告。（座長）
- ・現在調査しているのは、アザラシにも陸棲の動物でも見られるマダニ（あるいはシラミ）

媒介性の感染症が中心。ジステンパーに関しては、もし今後調べるとしたら、研究材料を考えて、検討が必要。

- 2000年から環境省で環境ホルモンのプロジェクトがあり、そのときにアザラシを組み込んでいる。それを調べると、北海バルト海に比べて、北海道のアザラシは10分の1ぐらいの汚染レベルだったというのが、そのときの結果だ。ただしアザラシの免疫機能と汚染の関係は全然研究されておらず、それは今後の大きな課題だと思うので、坪田先生にはそのあたりを検討してほしい。(座長)